



# 主は偕ともにあり 田中遵聖じゅんせい説教集

田中遵聖「著」／神藏美子「解説」

「十字架は奪ってくる」――。

直木賞作家・田中小実昌の父にして、独立教会「アサ会」の牧師であった田中遵聖。長らく眠っていたその礼拝説教集をここに完全復刊。小説『アメン父』『ポロポロ』などをつうじて断片的に知られるのみだった自由で無類な信仰が、「受け」「奪い」「直接する」など独自の表現とともに蘇る。あらたに写真家・神藏美子による解説を収録するほか、若い小実昌と遵聖の姿など、カラー口絵4頁を付す。



田中遵聖（たなか・じゅんせい）

本名・田中種助。1885年、静岡県生まれ。留学先の米国ワシントン州シアトルにてキリスト教と出会い、久布白直勝から受洗。帰国後、1916年に東京学院（現、関東学院）神学部に入學し、牧師となる。1928年に福岡・八幡山中で「アサ会」を立ち上げたのち、呉にて伝道活動に従事する。1958年死去。

神藏美子（かみくら・よしこ）

写真家。著書に『たまゆら』（マガジンハウス、1998年）『たまもの』（筑摩書房、2002〔2018〕）、『たまきはる』（リトルモア、2015）などがある。

## 【主な目次】

解説「聖コミマサ」が書き記した「ア

メン父」 神藏美子

## 本編

聖霊は証明しまた通達する／白い衣を着た人々／イエス様捕われの夜、十字架迄の主／先なる者と後なる者／復活につき／ゲラセネの悪鬼に憑かれし者 癒し／出エジプトとアサ／十字架とアサ／エマオの二弟子と二つのウケ感じ／トマスとウケ／アサと直接性／神の直接性について／イエス様直接／場の取替と奪い

ほか田中遵聖小伝、説教題目など

など説教28編

◆A5判・286頁・本体3000円

10月25日発売

● 8 月 刊 行



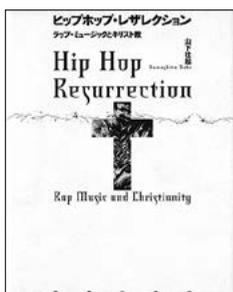
# 改革者の肉声が聞こえる！ アモス書講義

ジャン・カルヴァン／関川泰寛監修／堀江知己訳

◆ A 5 判・本体 5000 円

ライブ感溢れる講義の様子。1559年に創設されたジュネーヴ大学で、カルヴァンが週3日、隔週で行った講義の記録。ヘブライ語原典を自らラテン語に訳し、逐条的に入念なパラフレーズを行うスタイル。注解書とは趣を異にするライブ感溢れたカルヴァンの講義の様子を生き活きと伝える。改革者は預言者をどう読んだのか――。

● 7 月 刊 行



# ヒップホップ・レザレクション

ラップ・ミュージックとキリスト教

山下壮起（阿倍野教会牧師）

◆ A5 変型判・本体 3200 円

ヒップホップはなぜ繰り返し神や十字架を歌うのか。アフリカ系アメリカ人の宗教史を背景にラッパーたちの歌詞を聴き、その深い宗教性を浮かび上がらせた、気鋭の神学者による注目作。

● 6 月 刊 行

# 忽ち重版！ 夜と霧の明け渡る日に

未発表書簡、草稿、講演

◆ 四六判・本体 2400 円

ヴィクトール・フランクル／赤坂桃子訳



強制収容所からの解放と帰郷という、フランクルの人生において最も重要な時期の伝記的な事実と、当時の中心思想の一端を、未公開書簡と文書を用いて再構成する。名著『夜と霧』誕生の背後にあった個人史と時代史の二つの文脈が、初めて明確に交差する。編者は、膨大なフランクル文献に最も詳しい、ウィーンのリクトール・フランクル研究所所長アレクサンダー・バティアエニ博士。

在日本韓国YMCA編

## 未完の独立宣言

2・8朝鮮独立宣言から100年

「2・8独立宣言」が東京朝鮮YMCAから発せられ、3・1独立運動の導火線となつてから今年が100年。この宣言の歴史的意義やキリスト教との関係、また日韓の市民たちが今後そこから何を学ぶべきかをめぐり、多くの論者が多面的に考究する。

◆四六判・予価2500円

ウイリアム・キヤヴァノー著／東方敬信・田上雅徳訳

## 政治神学の想像力

〔仮題〕

国家・市民社会・グローバル化を支配する規律化された想像力を別扱し、もう一つの想像力をキリスト教のストーリーから回復しようとする試み。現代世界を席卷するネオリベラリズムにキリスト教はいかに対抗するのか。その可能性を探る新たな政治神学。

◆四六判・予価2500円

佐竹明著

## 第二コリント書 10—13章

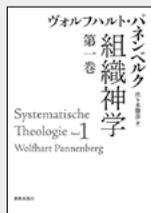
2017年に刊行された8章—9章に続く待望の続刊。世界最高水準の歴史的・批判的注解。〔現代新約注解全書〕

◆A5判・予価9900円

●9月に出た本と雑誌

## 組織神学 第一巻

W・パネンベルク著／佐々木勝彦訳



モルトマンと共にバルト後の神学界を主導したパネンベルク。その名著『組織神学』全三巻は長らく邦訳が待たれていたが、ここについに刊行開始。キリスト教の真理要求を保持しつつ、歴史的省察と体系的省察とを絶えず結合し貫徹しようとする批判的・方法的意識に貫かれた叙述。第一巻では組織神学の本質、キリスト教の真理性の意味、そして神論を扱う。

◆A5判・本体9000円

〔重版出来〕

## イエスの譬え話 1 第5刷!

ガリラヤ民衆が聞いたメッセージを探る

山口里子著

◆A5判・本体2000円

## 福音と世界

10月号 朝鮮半島と日本のあいだ

◆税込647円

寄稿者：倉橋耕平、菊地夏野、長尾有起、金村詩恩／菊地純子／土井健司、マニユエル・ヤン、山口政隆、松本あずさ、町田康、石井光太、内田樹、辻学、長谷川修一、佐藤優

## 編集部から

●小説家・田中小実昌の父にして、独立教会アサ会の牧師だった田中遵聖の説教集『主は偕にあり』をはじめ手に取ったのはいつのことだったか、よく思い出せません。たしかなのは、写真家の神藏美子さんからこの本を手渡されたこと、その後田中家の方々にも導かれるようにして出会い、広島・呉にあるアサ会の会堂跡を共に訪ねる機会にまで恵まれたこと、そうした出来事のすべてが連なってきたという事です。内容には手をいれないという約束をご家族としていたため、編集作業はある意味では簡易なのですが、入稿を控えて言いようのない緊張感を覚えています。記録によればアサ会は滝沢克己との交流やブルームハルトの紹介などをおこなっており、日本のキリスト教史においても重要な意味をもつことはたしかです。そのうえで今回は、神藏さんにエッセイ調の解説をお願いしています。神藏さんは、もともと私家版だった『主は偕にあり』を、イエスを追いかける自らの旅の手がかりとしてこられました。その歩みをうけて読者が触発され、あらたな出来事がはじまっていくことが一度でもあれば復刊の意義はあるでしょうし、この本にはそれだけの力が秘められてい

るとわたしは確信しています。(堀)

●小社は一九四四年一月五日に創立されました。今年同日、創業七五年を迎えることができましたことは感謝にたえません。読者、著訳者、またキリスト教書の流通販売に携わる業界の同志たちの支えがあったからこそその歴史です。そして何より、欠け多き者たちによる小さな会社を用いて棄て給わなかつた主の憐れみにひたすら感謝です。創業者の志は文書によるキリスト教伝道でした。今後その志を堅持しつつ、新たな歴史的状況の中で「キリスト教」と「伝道」の意味をより広く深く展開し、真実の「道」を求めるこの国の読者の要望に応えうる本を出し続けたいと願っています。

●一〇月一日より消費税率が二パーセント引き上げられて一〇パーセントとなりました。『福音と世界』の本体価格は変わりますが、税込定価は六四七円となります。なお来年二〇二〇年五月号より本体価格を二パーセント引き上げて六〇〇円とさせていただきます。税込定価は六六〇円となります。読者の皆様にご迷惑をおかけし、心苦しい次第ですが、ご理解のほどお願い申し上げます。(小林)

# 福音と世界

2019年  
11

A5判・80頁・定価635円・送料70円  
年間予約購読料(送料共)8460円

特集… 天皇制を拒否するために

「象徴」の政治、外への祈り

—— 天皇制から離脱するために ——

天皇制論の罫

守中高明  
小泉義之

天皇制と男女平等

—— 私たちが自身の将来のために ——

牟田和恵

天皇制を語れ、だがそのまっただき無根拠性において

綿野恵太

植民地主義とキリスト教社会主義者群像

—— 太田昌国 —— 友常勉

虹作戦の喪失と回復

—— 編集部「拒否を宣言する」 ——

—— 天皇制に抗うキリスト教界の声 ——

【好評連載より】

◆ 教父学入門 3 …………… 土井健司

◆ パビロンの路上で 8 …………… マヨエル・ヤン

◆ 神の酒 7 …………… 石井光太

◆ 新約釈義 テトス書 8 …………… 辻 学

◆ 福音書記者たちの饗宴 11 …………… 松本あずさ

◆ 遺跡が語る聖書の世界 11 …………… 長谷川修一

◆ 私はロックがわからない 14 …………… 山口政隆

◆ レヴィナスの時間論 55 …………… 内田樹